国際ロータリー第2500地区第６分区

帯広東ロータリークラブ会報

2016-2017年度
帯広東ロータリークラブ
会　長　高田　進
幹　事　石川博機
メディア委員長　上野敏郎

「活：かつ」

第1557回例会

平成29年3月7日㈫　於 ホテル日航ノースランド帯広

■創　立：1984年6月15日　■認証：1984年6月18日　■例会：毎週火曜日 12:30～13:30
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F TEL0155-25-7347　■会場：ホテル日航ノースランド帯広

2016-2017年度　国際ロータリーテーマ
【人類に奉仕するロータリー】
2016-2017年度国際ロータリー会長
ジョンF・ジャーム

ガバナーテーマ
【ロータリーの明日の為に、積極的に行動しよう】
国際ロータリー第2500地区 ガバナー
駒　形　曙　美

月間テーマ
【水　と　衛　生　月　間】

◎起　　立		加藤昭治　副SAA
◎友情の握手		加藤昭治　副SAA
◎点　　鐘		高田　進　会　長
◎開会宣言		加藤昭治　副SAA
◎国歌斉唱		加藤昭治　副SAA
ロータリーソング	「四つのテスト」	
◎ビジター紹介	親睦活動委員会	古川直也　委員長
	帯広ＲＣ	仁木宏一　様
	帯広ＲＣ	及川ゆかり　様

３月結婚記念日を迎える会員　古川直也 親睦活動委員長

西藤　亭	会員	昭和37年３月25日
石川博機	会員	昭和43年３月８日
板倉利男	会員	昭和44年３月24日
加藤武志	会員	昭和55年３月22日
橋本　純	会員	平成６年３月21日

３月誕生日を迎える会員　古川直也 親睦活動委員長

金尾浩幸	会員	昭和15年３月28日
板倉利男	会員	昭和17年３月５日
曽根　一	会員	昭和26年３月11日

◎バースデーソング	親睦活動委員会	古川直也　委員長
◎乾　　杯		加藤昭治　副SAA
◎会　　食		

会長挨拶　高田　進 会長

はじめに山形県の寒河江さくらんぼロータリークラブの提携話が出ていますがアンケートが戻ってきています。

今ちょうど情報委員会がありますので、副題として検討してもらい各グループの中で議論してもらえればと思います。

次に考え方の１つなのですが昔からちょっと引っかかる言葉がありまして、不寛容社会という言葉があります。これは去年ＮＨＫで取り上げらていたのですが、不寛容というのは感性の１つです。「心が狭く人の言動を受け入れないこと。他人の罪や欠点を厳しく咎めること。やさしくない。理論的に合わないことは許さない。」そういうような意味ですが、みんな自分の心の中には自分の持論というものが正義だというものを持っているので、それに照らし合わせて物事を判断しようとする。

それを表明することは構わないです。それを相手に強制しようとした時、その性質が一気に変容してしまいます。車の運転などをしていると人格が変わるとか、自分は正しくて相手がみんな良くないか、捕まらなければスピード違反しようが一時停止しなくても関係ないとか、自分を蚊帳の外において都合良く判断をしてしまう、こういった考え方にどうしても偏りがちになるなど、そういうことが非常に気になります。

また先日ニュースで、歩道で大人がたばこを吸いながら歩いていると、小学生から「歩きたばこは良くないからやめて欲しい。大人なのにそんなこともわからないの」と。その大人がどうしたかというと、子どもを張り倒したらしいです。「言葉の上で子どものいっていることが正しいので反論できない、腹が立つから殴った」と。こういうことが起きるわけです。

事の善悪というのは主観的であって、自分に都合のよくしかも感情的になってしまうということがあります。もちろん社会的常識的に良くない事は、多々日常にありますが問題は自己基準が正義であり許容の余地が無いというところになります。

しかし理論的に自分が悪いと指摘されても、素直に謝れないあるいは謝ったとしても不満が残る。これは両者とも後味が悪く不機嫌になりそれを家族とか回りにぶつけてたりすることによって回りが不機嫌な感じを広げてしまう。そういう状況を作ってしまうと、優しい定義の１つに明らかに地位とか権力とか財力とかそういう力がある人はそれを行使しないという考え方があります。

隙の無い主観的な正義は、集団生活には必ずしもなじまないということもあり、円滑に社会的な人間関係の実

現には余裕とか無駄とかいっけんそういう緩んだところがないと上手くいかないじゃないかという考え方で、結論があるわけでないのです。とりとめない話になりましたが、以上挨拶とさせていただきます。

会務報告

石川博機 幹事

◎第2500地区第６分区　ＩＭ(都市連合会)開催のご案内

日　　時：平成29年３月18日(土)
午後１時より受付開始
Ｉ　Ｍ：午後１時30分～午後５時30分
懇親会：午後５時45分～午後７時30分

場　　所：ホテル日航ノースランド帯広

※尚、３月28日(火)の繰上げ例会と致します。

委員会報告

会員増強・ロータリー情報委員長　高橋克弘 委員長

先日情報集会ということでご案内申し上げていますが、21日の集会報告に向け各班長さんにいろいろご面倒をおかけいたしますが、ひとつよろしくお願い申し上げます。

テーマにつきましては「私にとってロータリーとは？」ということで、今の東ロータリーの明るい雰囲気をより一層継続し高めて行くためにも、念頭に置きながらお話をしていただければと思います。

先程会長の方からもありました、寒河江さくらんぼロータリークラブとの姉妹クラブ提携という話も含めて副題として議論をしていただければと思います。班長さんに今までの経緯等につきまして会長から箇条書きなどもありますので、解らないことなどがありましたら説明をさせていただきますので、議論していただければと思います。よろしくお願いいたします。

ニコニコ献金

親睦活動委員会　西田重人 委員

- **高田会長**　先週の夜間移動例会、親睦委員の皆様お世話様でした。久しぶりの温泉泊まりでした。
- **石川幹事**　結婚記念日のお祝いを頂き有難うございました。
- **神田会員**　小学４年生と１年生の孫が先日行われました英語検定試験の２級と４級にそれぞれ合格しました。
- **馬渕会員**　先週悠湯館での夜間移動例会には多くの会員の皆様に御来館頂き誠にありがとうございました。
- **上野会員**　本日の例会で卓話をさせていただきます。私のささやかな“福祉活動の話”です。がまんして下さい。
- **加藤(雄)会員**　宮古島の写真が高く売れましたのでニコニコします。
- **宮前会員**　２月20～23日アジア大会無事終りました。小平さんと髙木さんに感謝です。
- **髙橋会員**　情報集会宜しくお願い致します。
- **古川会員**　先週は夜間移動例会、大変ありがとうございました。今年度も今月で終わりです。ガンバッテいきましょう！
- **加藤(武)会員**　結婚記念日のお祝いを頂き有難うございました。
- **及川会員**　帯広ロータリーから、及川さん仁木さんようこそ、ありがとうございました。この間は、おじゃま致しました。
- **西田会員**　先週の例会でその他大勢で歌を唄って1,000円頂きましたので……

出席報告

出席・プログラム委員会　宮前 克則 委員

いろんな例会があり１カ月程ご無沙汰をしておりましたが、第1553回～第1556回の出席情報は下の表のようになりましたので報告いたします。

今日は出席が25名です。

２月の末時点で100％の出席をされてる方は、池田会員、石川会員、上野会員、加藤(昭)会員、鎌田会員、神田会員、齊藤会員、西田会員、西藤会員、深澤会員、福岡会員、宮前会員の12名です。90％を達成しているのが、大塚会員、加藤(武)会員、加藤(肇)会員，加藤(雄)会員、古川会員、高田会員。このあと全て出席されますと、越浦会員と大池会員は90％を達成することになりますので頑張っていただきたいと思います。

３月18日の日、南クラブ担当で北海道ホテルにてＩＭ関係の繰り上げ例会になります。３月28日の例会はありませんのでよろしくお願いいたします。

回数	日付	会員数	計算に用いる会員数	ホームクラブ出席者	メークアップ	欠席数	出席率
1553	02/07	39	34	27	1		82.4
1554	02/14	39	34	26	1		79.4
1555	02/21	39	34	27	3		88.2
1556	02/28	39	30	22	4		86.7
２月計		156	132	102	9		84.1

プログラム

社会奉仕委員会

【会員卓話】

演題：【縁は異なもの味なもの】

上野敏郎　会員

残り時間20分位ですけど手短に、私の社会福祉に関する考え方をお話させてもらいたいと思います。

演題は「縁は異なもの味なもの」とさせてもらっておりますが、齊藤会員からお話があったときにヒョッと思いついたタイトルがこの演題でありました。何を思いながらその言葉が出て来たかという説明をさせてもらいたいと思いますが、それは人生、人の出会いの繰り返しだったなとこう思いながら、今を生きているものですから自分にとって福祉という一つの課題を与えたときに、やはりそれも人の出会いの繰り返しだったなと思ったものです。

それともう一つ頭をよぎったのが、先程深澤会員から映画のタイトルを教えてもらったので、ちょっとばつが悪いのですけど「おくりびと」という映画がありました。

あの舞台の話をいつかみなさんに話したことがあるかもしれませんけども、あの映画は私が生まれた山形県庄内が主たる舞台でありまして、納棺師の事務所に勤める事務員さんは帯広出身であります。帯広にお子さんを残して札幌に出かけていくという設定になっているのです。余貴美子さんが演ずる上村百合子は「私は帯広にこどもを残してきた、それが気がかりでしょうがない」と。その話で本木雅弘さん演ずる納棺師でチェロを弾く主人公に「ちゃんと会いにいきなさい」と言うのですね。

帯広という地名をあの映画は２回言うのです。それに私は感動いたしましてインターネットで調べて余貴美子さんのプロダクションに大正メークインと長芋を送ったのです。そうしましたら半月くらい後に横浜の中華饅頭を私の家に送ってくれました。このことを繰り返しているのです。あの映画が取り持つ出会いという中で私は余貴美子さんを知ったし、私の生まれ故郷、生を受けた山形県鶴岡と私が骨を埋めるこの帯広ということを結び付けてくれたということで、それからもう少しこの帯広が大好きになったというようなことで今日があるのです。

こんな様な気持ちの中でこれから福祉のお話をさせてもらいたいと思います。タイトルを書いてまいりました、資料も若干用意してまいりました、少し多めですその資料を下を向きながらずーと下を向きながら聞いていただきますと大変話がしやすいのでご協力お願いいたします。

私は高校を卒業するまで山形県の鶴岡という町にいました。高校を出て東京そして卒業した年の昭和45年の秋ですけど９月６日この帯広市民になりました。

最初は鶴岡という町に帰るつもりでいたのです、それは鶴岡の高校時代に私は養護施設のボランティア活動をやっていました、今でいいますと帯広の十勝学園のような施設です。昔は平原学園といいましたけど……

その施設のボランティアを高校２年から２年間卒業するまでやっておりまして東京にでました。その時に大きな影響を受けたのが日野三郎太先生という園長先生でした。「縁は異なもの味なもの」最後になるのですけどその日野三郎太先生がご縁でこの私が高校時代にいっていた七窪思恩園養護施設と平原学園が関係あることを知るのです。

私はどうしてもよそから来たという引け目がありましてなかなかとっつきづらいというか私自身が必要以上に引っ込み思案になることがあるのですけど、そういう故郷の情報を得ることによって私は一つ一つ自分が帯広人になっていくような気になっているのです。そういう心境の中でお話をしたいと思います。

七窪思恩園といいました養護施設は海辺にありました。その養護施設の子ども達が非常に荒れるのです。園長さんと職員さんの間の中で大人の争いがおきます、それを子ども達は敏感に受け止めて、子ども達はどっちかの班につくのです。そういうような養護施設でありました。私が高校を卒業するときもそのまま続いておりました。

日野三郎太先生はクリスチャンでありました、私が東京に行くというときにご紹介をしていただいたのが東京の西荻窪にありました双葉園という養護施設の園長先生高島巌先生でありました。高島先生は同じくクリスチャンでありましたけれども、児童憲章の創案者の一人であります。児童憲章は昭和26年５月５日に作られたものでありますけど、12項目から成り立っている児童憲章でありますが、その一つ一つを創案し点検し精査した委員の１人が高島巌先生でありました。

ちょうど帯広でいいますと公園東町のような所に双葉園という養護施設がありました。私が高校時代に通っていた養護施設は海辺にありました。今は電車が走っていませんが電車で30分位かかるちょっと離れたとこにありました。私は高島先生に聞いたのです。「なぜ住宅地の真ん中にこの養護施設はあるのですか？」と聞いたわけであります。私自身はそこには他意はありませんでしたけれど、先生の顔色が違いました。「君はこれからこの双葉園に来たいといっているけれどもしばらくは私の部屋だけにしなさい」ということで１年近く子ども達に接することを禁止されまして、ほとんど高島園長先生の部屋で様々なお話を聞くということになりました。

それで最後に丁度クリスマスの時期だと思いますけど、さあホールに行って遊びましょうというときにですね、私はまだ心は晴れていませんでしたけど子ども達と接することができました。そして終わって園長室で高島先生のお話をお聞きすることになります。

その時に私は恥ずかしい思いをしたわけではありますが「福祉ということは幸せということなのだ、双葉園は児童福祉養護施設というのだよ、うちの子ども達の幸せをなくして誰が幸せ者だと」というような意味合いのことをお話ししたのです。私自身の中に普通の環境の中にこの養護施設があっていいのでしょうか？というような問いかけを園長先生はされたのかと誤解をされてしまったわけです。私のいい方がまずかったわけでありますけど、その時に初めて福祉という言葉のもつ意味合いを知りました。

それまでは社会奉仕だとかそういうようなことばは違うよな、奉仕という言葉では自分の今の活動をうまく言い表していないよな、しかし社会協力活動だとかを問うことを使い分けていったのでありますのですけど、やはり福祉という言葉がそこから幸せという言葉に置き換えてくると、私が何をすべきか何をしたいのかということが少しずつ見えてくるようになったのであります。

ある日、渋谷の駅におりました私は１人であのハチ公の前で叫んでいたのであります、手には署名用の画板を持っておりました。何の署名かといいますと山形県鶴岡の七窪思恩園という施設で「日野三郎太園長先生という良い園長先生を首にしようとしていると、皆さん是非ともその首切りに反対をして下さい」ということを叫びながら新宿池袋渋谷というふうに駅を変えて署名活動をやっておりました。

ある日、明治大学の藤田さんという方に出会いがあります、私が学生服を着て署名活動をやっておりましたから「君は学生だろう？」こんな東京のど真ん中でわけの分からん署名を集めても意味がないのだから、明日私の大学の生田校舎においでということで明治大学の生田校舎に行ったわけです。藤田さんは日赤の学生奉仕団のメンバーでした、そして沢山の署名を集めてくれて私にこれ

を使いなさいといってくれたのであります。
私はその署名を持って山形県庁に出向くわけでありますけど、それ以来藤田さんに様々な影響を受けます。それはサリドマイドという子ども達と出会いがあったのであります。そのサリドマイド問題から子どもの専門病院を作りましょうという運動が起きるのです。
サリドマイド皆さんはご存じだと思うのですけど、手首が肩口から出てくるというアザラシっ子と呼ばれた奇形児であります。日本の大きな製薬会社のイソミンという薬がその奇形児を産む原因を作ったのは明らかなのでありますのですけど、国の政治はなかなかこれを認めようとしなかったのであります、道義的責任も認めませんでした。そういう中で一方では訴訟問題を応援しながら、一方では今現在これから成長をしていく子どもをどうするか、この環境をどう作っていくかということも学生の福祉活動としては大切な事でなかろうか、それで子どもの総合病院を作る、子どもは大人のミニチュアではありません子どもには子どもの専門病院をという訴え方をさせてもらいました。
その時運動の媒体になったのが「マッチ」です。これは50年前の「マッチ」でありまして１個１個セットになってまして、そのマッチを取りますと１個５円になります。このマッチを売りながら子どもの専門病院を作る運動を続けておりました。マッチでは病院は立ちませんでしたけど、それ以降国の医療行政は変わってきたと思います。私はたった１人当時学生時代に尊敬する政治家それは当時の厚生大臣、園田直厚生大臣が道義的責任を認めたのであります。私は会えませんでしたけど議員会館に初めて園田さんを訪問して、名刺だけ置いてきたところであります。そんな事を学生時代にやっておりました。
もう一つ資料に「げそっとやせた」写真があると思うのですけど21歳の私です。暮れで三越デパートの配達のアルバイトを一生懸命やったのです。儲かったのですよ、ビール１ダース配ると割増し料金が60円あったのですよ、やればやるほどお金になるので儲かってげそっとやせていたのですけど、ある団体の取材を受けて青い鳥十字運動を語りなさいといわれて語った姿が資料にあります。
その後帯広に来ました、帯広に来たというよりも北海道に来たかったのですけど、本当は八雲だったのです。八雲に行きたかった八雲に障がい重症心身児施設がありました。私は東京から自分は社会支援の事業家になりたいという夢をもっておりまして、それを北海道で実現したいと思って東京で10カ所の場所を調べて仕事を下さいと手紙を書くのです。
返事が来たのは２カ所一つは八雲の重症施設当時はコロニーという呼び名をしていました、どうぞ来てくださいということでした。
もう一つは帯広の平原学園であります、遠藤園長先生が長い手紙をくださいました。そして結論は「うちは帯広市の施設だから来てあなたをどうこうと雇うということにはなりません。だから今のまま東京にいたらどうですか？」というような手紙だったのですけど……
２カ所から手紙をもらいました。
当時は函館と帯広がこんなにも離れているということは全く知りませんで、私は昭和45年に来るまで北海道に来たことがないのです、来て初めて北海道って広いんだなと思ったのですけど、さまざまなアドバイス等を受けながら私は富士火災保険という保険会社の営業マンとしてこの帯広に来ました。
目標は40歳にして障害児と健常児の混合保育をする混合保育園、場所は西帯ニュータウンと決めてですね、20代の後半から目標にやってきましたけどそれは出来ませんでした。それで40歳にして方針を変えて議会へ出させていただいて、その中で今の幼稚園との縁がありまして、現在議員は辞めましたけど理事長を勤めさせてもらっているところであります。
さて平原学園であります。山田範三郎さんという新聞のコピーがあります。これは嶺野侑さんの書かれた記事でありますけど、山田範三郎さん岐阜の日本育児院というところにいた方でありますが、明治43年に清水村人舞という所に孤児院を作ります。
この岐阜の日本育児院というのは五十嵐喜弘さんという方が作ったものです。五十嵐喜弘さんは山形県鶴岡湯野浜温泉の跡取り息子でありました。そして思恩会という会を作ります。私が高校の時代いっていた七窪思恩園と同じ経営母体とする日本育児園の清水の施設が出来たというのが後から知りました。ニュースの元に成ったのは嶺野侑さんであります。
そしてその山田範三郎さんがわたしが来ても無理だよといってくれた、平原学園につながるということを知るときに、私はやはり非常に狭い中でグルグル回りながらでも長い時間そういう１つの物に引っ張られながら今日を迎えに来ているのだなとつくづく思います。
そういう、人の出会いというものを大事にするそれが幸せを招くそれが福祉につながる、社会福祉という言葉は当時は狭い範囲の言葉でした、それが福祉社会というふうな言葉に置き換えて来たときにこれは皆のためになるそういう幸せづくりの考え方なんだよという事に、通じて行くのではなかろうかと思っております。
あっちこっちに話がいきましたが、私の身の上話のようになりましたけど、私は今嶺野侑さんがお話しされたことを「とかち人物歴史館」のタイトルで、この３月に本を刊行することになって、一生懸命最終原稿を校正しています。登場人物は70名です。晩成社前夜から吉村博まで、嶺野侑さん講話10回、それを１冊の本にまとめて、500冊を作る予定です。その時はまた皆さんにお話出来ればと思います。
今日はありがとうございました。

◎閉会宣言　**加藤 昭治 副SAA**
◎点　　鐘　**高田　進 会 長**

次週プログラム

職業奉仕委員会

３月14日（火）「会員卓話」 加藤雄樹 会員